

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和2年11月】

■調査概要（データ対象期間：令和2年11月1日～11月30日）

○調査期間：令和2年11月30日～令和2年12月17日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業22企業、製造業21企業、卸売業13企業、小売業23企業

飲食業16企業、サービス業44企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計139企業>

○調査項目：11月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DIはマイナス幅の拡大、水準DIはマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲32.6）よりマイナス幅が2.6ポイント拡大し、▲35.2となった。業種別では、製造業、飲食業ではマイナス幅が縮小した。小売業、卸売業、サービス業、建設業はマイナス幅が拡大した。

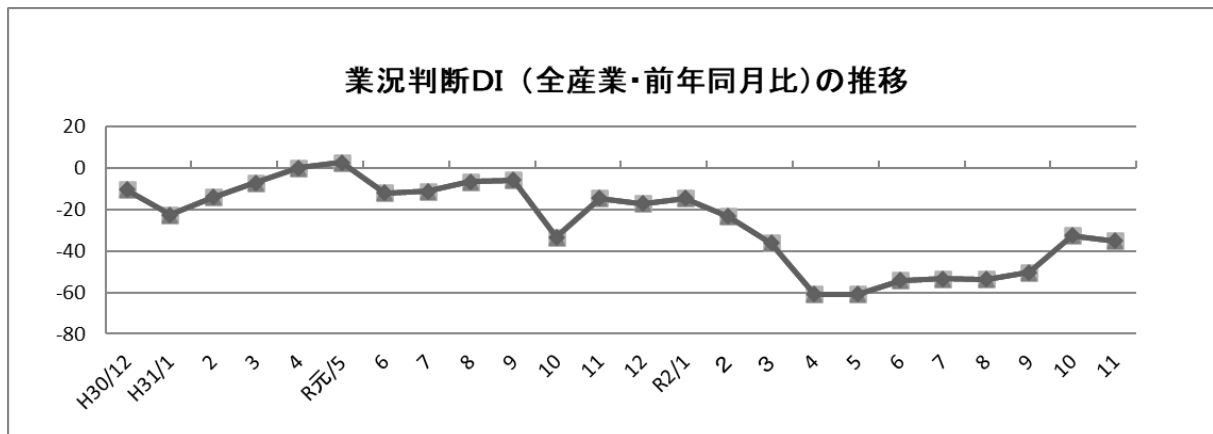
○全産業合計の水準DIは、前月（▲33.3）よりマイナス幅が0.9ポイント縮小し、▲32.4となった。業種別では、飲食業、建設業、製造業はマイナス幅が縮小した。卸売業、小売業、サービス業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	10.8 (12.3)	43.2 (42.8)	46.0 (44.9)	▲ 35.2 (▲ 32.6)	12.9 (11.6)	41.8 (43.5)	45.3 (44.9)	▲ 32.4 (▲ 33.3)
建設業	0.0 (0.0)	72.7 (73.7)	27.3 (26.3)	▲ 27.3 (▲ 26.3)	4.5 (0.0)	77.3 (73.7)	18.2 (26.3)	▲ 13.7 (▲ 26.3)
製造業	14.3 (9.5)	28.6 (23.8)	57.1 (66.7)	▲ 42.8 (▲ 57.2)	23.8 (19.0)	14.3 (19.1)	61.9 (61.9)	▲ 38.1 (▲ 42.9)
卸売業	0.0 (8.3)	46.2 (41.7)	53.8 (50.0)	▲ 53.8 (▲ 41.7)	0.0 (8.3)	38.5 (50.0)	61.5 (41.7)	▲ 61.5 (▲ 33.4)
小売業	17.4 (30.4)	39.1 (34.8)	43.5 (34.8)	▲ 26.1 (▲ 4.4)	17.4 (17.4)	39.1 (43.5)	43.5 (39.1)	▲ 26.1 (▲ 21.7)
飲食業	6.3 (5.9)	18.7 (11.7)	75.0 (82.4)	▲ 68.7 (▲ 76.5)	12.5 (11.8)	25.0 (11.7)	62.5 (76.5)	▲ 50.0 (▲ 64.7)
サービス業	15.9 (13.0)	45.5 (54.4)	38.6 (32.6)	▲ 22.7 (▲ 19.6)	13.6 (10.9)	45.5 (52.1)	40.9 (37.0)	▲ 27.3 (▲ 26.1)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

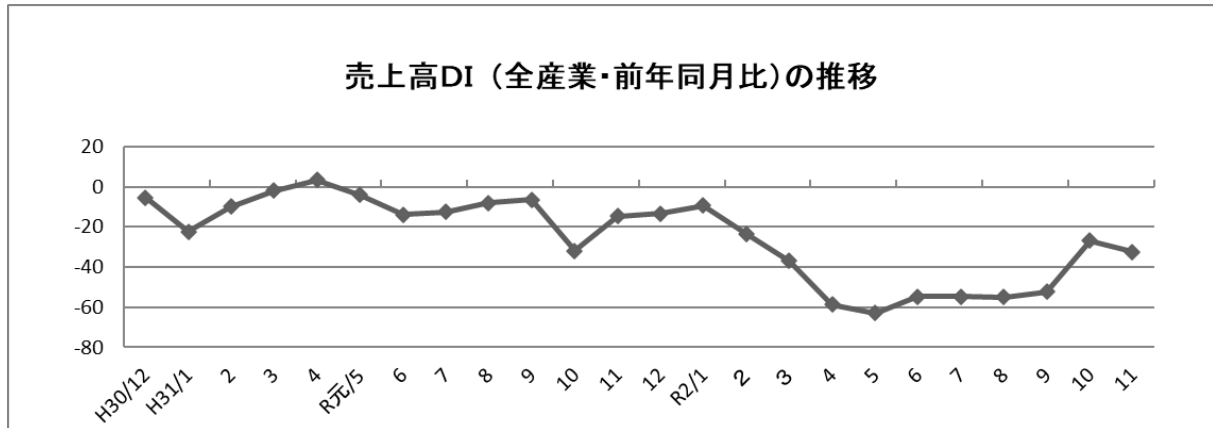


2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲26.8）よりマイナス幅が5.6ポイント拡大して、▲32.4となった。業種別に見ると、製造業はマイナス幅が縮小した。卸売業、飲食業、建設業、小売業、サービス業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月売上高業種別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲14.6	▲13.3	▲9.3	▲23.4	▲37.0	▲58.6	▲63.0	▲54.8	▲54.8	▲54.9	▲52.4	▲26.8	▲32.4
建設業	0.0	▲4.0	16.6	▲12.5	▲5.0	▲35.0	▲18.2	▲29.2	▲31.8	▲35.0	▲39.1	▲15.8	▲22.8
製造業	▲18.2	▲40.9	▲14.3	▲41.0	▲19.1	▲75.0	▲70.0	▲70.6	▲76.2	▲68.2	▲64.0	▲47.6	▲38.1
卸売業	▲50.0	▲38.5	▲30.8	▲28.6	▲81.8	▲63.6	▲72.7	▲53.8	▲41.7	▲60.0	▲61.5	▲25.0	▲61.5
小売業	▲21.9	▲6.7	▲23.4	▲25.0	▲46.1	▲50.0	▲72.0	▲32.0	▲66.7	▲43.5	▲36.4	▲13.1	▲17.4
飲食業	▲43.8	▲20.0	▲31.2	▲47.0	▲92.9	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲88.2	▲58.8	▲68.7
サービス業	4.6	0.0	2.2	▲8.9	▲25.5	▲56.8	▲61.4	▲65.9	▲44.2	▲46.7	▲44.1	▲17.4	▲20.5

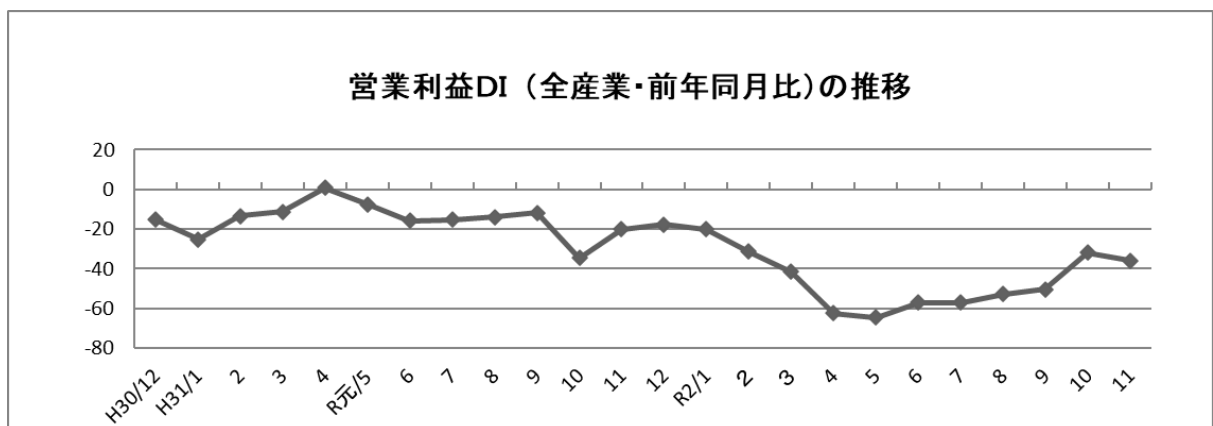


3. 営業利益D I（前年同月比）

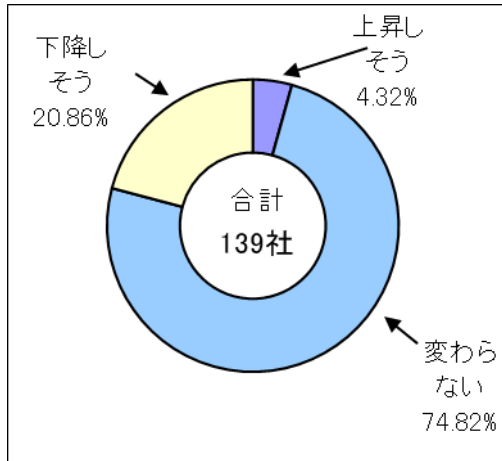
○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲31.9）よりマイナス幅が4.1ポイント拡大して、▲36.0となった。業種別に見ると、サービス業はマイナス幅が縮小した。卸売業、飲食業、小売業、建設業、製造業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月営業利益業種別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲20.0	▲17.8	▲20.0	▲31.3	▲41.5	▲62.5	▲64.5	▲57.0	▲57.1	▲52.8	▲50.3	▲31.9	▲36.0
建設業	▲4.0	0.0	▲4.2	▲29.1	▲30.0	▲40.0	▲31.8	▲37.5	▲36.4	▲40.0	▲30.4	▲31.6	▲36.4
製造業	▲31.8	▲50.0	▲38.1	▲50.0	▲38.1	▲81.2	▲65.0	▲82.3	▲90.5	▲59.1	▲60.0	▲52.4	▲57.1
卸売業	▲25.0	▲23.1	▲30.8	▲42.9	▲54.5	▲72.7	▲90.9	▲53.8	▲50.0	▲46.7	▲46.1	▲25.0	▲46.1
小売業	▲28.1	▲16.7	▲36.7	▲35.7	▲46.2	▲54.2	▲68.0	▲32.0	▲62.5	▲43.5	▲36.3	▲8.7	▲17.4
飲食業	▲50.0	▲40.0	▲37.5	▲52.9	▲85.7	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲94.1	▲70.6	▲81.3
サービス業	▲4.6	▲4.4	0.0	▲8.9	▲27.9	▲59.1	▲59.1	▲63.5	▲41.9	▲46.7	▲46.5	▲21.8	▲15.9



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

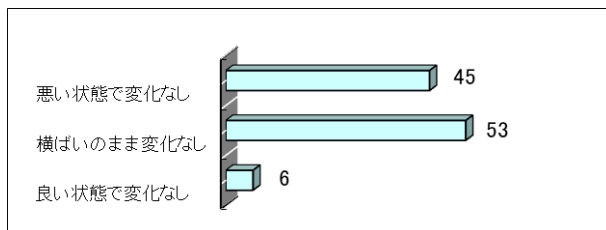


○令和2年12月～令和3年2月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.03ポイント減少し4.32%、「下降しそう」が2.74ポイント増加し20.86%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲13.7)、製造業(▲14.2)、卸売業(▲15.4)、小売業(▲8.7)、飲食業(▲37.5)、サービス業(▲16.0)であった。

➡「上昇しそう」では「7月豪雨災害復旧工事の発注があるため」(建設業)「中国経済の回復が力強く、産業界も動き始めた様子であるため」(製造業)「12～3月は繁忙期のため」(新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の見通しが立ち、絶望感が無くなってきているため)(小売業)「現在仕掛中の案件の回収が見込まれるため」(Go Toトラベルキャンペーン事業の期間延長の影響のため)(サービス業)といった声が寄せられた。

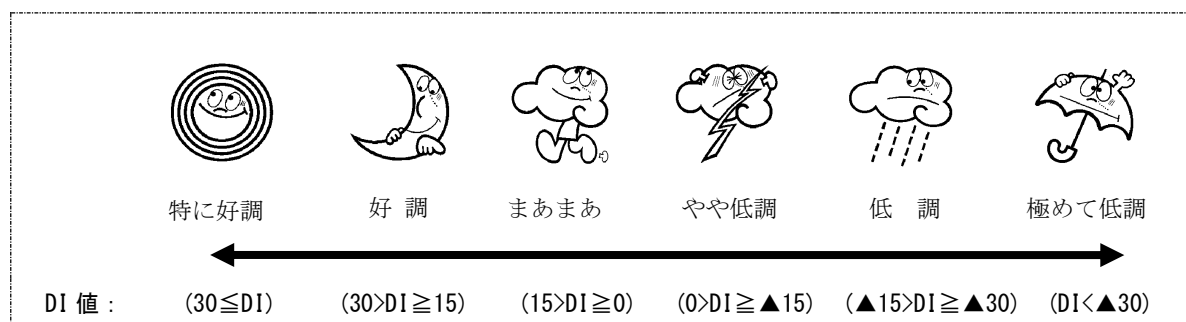
➡「変わらない」では「現在受注している物件だけで4月頃までは手いっぱいであるため」(建設業)「今後の見通しがたたないため」(製造業)「11月は出荷が集中したが、12月以降は不透明な状況が続くため」(卸売業)「失業者の増加による職業訓練受講者数がやや頭打ちになっているため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「首都圏工事の減少により受注単価の下落が見受けられるため」(建設業)「11月は年間で一番忙しく、1～2月は一番仕事がない時期であるため」(感染拡大による消費の低下のため)(製造業)「新型コロナウイルス感染症が拡大して飲食、観光への影響が大きい」(新型コロナウイルス感染症、寒さなどで人通りが少なくなってきたため)(卸売業)「寒さでお客様が減少しているため」(忘年会や新年会の予約がないため)(飲食業)「東京からのお客様が減少しそう」(テナント(飲食、ブック販売)に期間限定で家賃引き下げをしているため)「冬場の宿泊は例年低調なため」(新型コロナウイルス感染症第3波の影響で宿泊や忘年会の数が減少しているため)(サービス業)「新型コロナウイルス感染症の影響(同意見9件)」といった声が寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	0.0	▲ 4.0	16.6	▲ 12.5	▲ 5.0	▲ 35.0	▲ 18.2	▲ 29.2	▲ 31.8	▲ 35.0	▲ 39.1	▲ 15.8	▲ 22.8
受注量	4.0	▲ 4.0	0.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 55.0	▲ 36.4	▲ 29.2	▲ 27.3	▲ 25.0	▲ 34.8	▲ 21.0	▲ 18.2
受注単価	▲ 4.0	▲ 4.0	0.0	▲ 8.3	▲ 5.0	▲ 15.0	▲ 18.2	▲ 20.8	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 21.7	▲ 10.5	▲ 13.7
営業利益	▲ 4.0	0.0	▲ 4.2	▲ 29.1	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 31.8	▲ 37.5	▲ 36.4	▲ 40.0	▲ 30.4	▲ 31.6	▲ 36.4
見通し	0.0	▲ 8.0	4.2	▲ 12.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 13.7	▲ 4.2	▲ 4.6	0.0	▲ 8.7	▲ 10.6	▲ 13.7

<経営者の目・見方・etc>

建築工事

・新型コロナウイルス感染症がまだまだ経済にダメージを与えており、今後の経済全体の状況の見通しが見えない。

土木工事

・民間の設備投資低調のため、建設業は厳しい状況のように思われる。

鉄工

・新型コロナウイルス感染症の影響なのか、秋口以降動き出すとされていた案件が少なくなっている。

・一時収まりつつあった新型コロナウイルス感染症がここへきて再び拡大傾向となっているが、春の第1波の時と比べて、なぜか「何とかなるからこのまま続けよう」みたいな雰囲気がある。当社の取引先にも感染者が出ていて非常に身近になり不安である。仕事の方も今はそこそこであるが、来年以降が心配である。

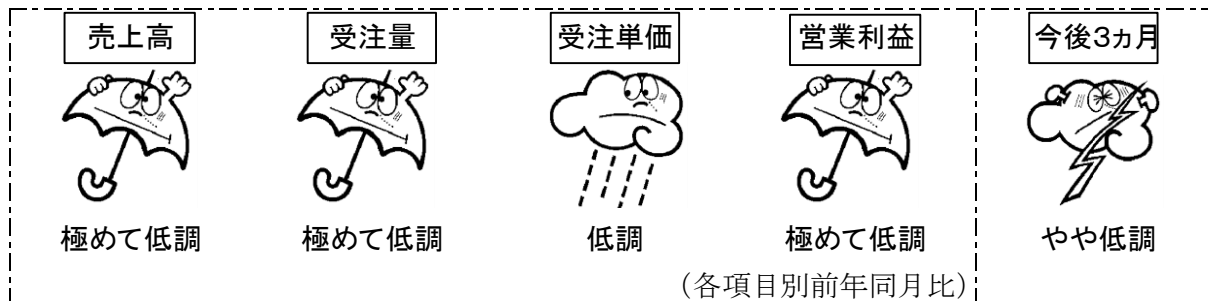
電気工事

・新型コロナウイルス感染症第3波ということで、いつ何時感染してもおかしくない状況にある。とにかく現場にて十分対策をとりつつ、受注業務を終わらせるよう会社として気を付けたい。

管工事

・今年度中は変わらないが、新年度からの仕事の見通しが立たない。いずれにしろ厳しい年になると思う。建設業のこれからのあり方等も考えていかなければならないと思われる。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 18.2	▲ 40.9	▲ 14.3	▲ 41.0	▲ 19.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 70.6	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6	▲ 38.1
受注量	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 19.0	▲ 41.0	▲ 33.3	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 81.0	▲ 59.1	▲ 52.0	▲ 42.8	▲ 33.4
受注単価	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 14.2	▲ 9.1	▲ 4.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.3	▲ 42.9	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 19.0
営業利益	▲ 31.8	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 81.2	▲ 65.0	▲ 82.3	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4	▲ 57.1
見通し	▲ 27.3	▲ 4.5	4.8	▲ 22.8	▲ 38.1	▲ 31.3	▲ 30.0	▲ 35.3	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 14.2

<経営者の目・見方・etc>

印刷

・岐阜県で中堅印刷会社が倒産した。経営者は70代後半で、現状の負債とコロナ禍により突然のことで、これにより近隣関連業者の連鎖倒産が発生した。昨年以降の印刷用紙の値上げと、インキ等石油系材料の値上げに対して、大手クライアントに値上げ交渉したが、全く受け入れてもらえず赤字を積み上げてしまったとのこと。事業承継を抱える印刷会社は松本地域にも少なくない。デフレ手法での営業活動にも全国的に無理が出始めている。

菓子

・お土産関係の販売はGo Toトラベルキャンペーン事業のため、前年に近い数字までかなり持ち直している。休んでいた売店も再開して活況となった。ただし、再度新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、先行きの見通しは厳しいと言わざるを得ない。

清酒製造業

・Go To 関連事業の影響のせいか、調子が良かったように感じる。しかし、今後は全く予想がつかない。

精密機器

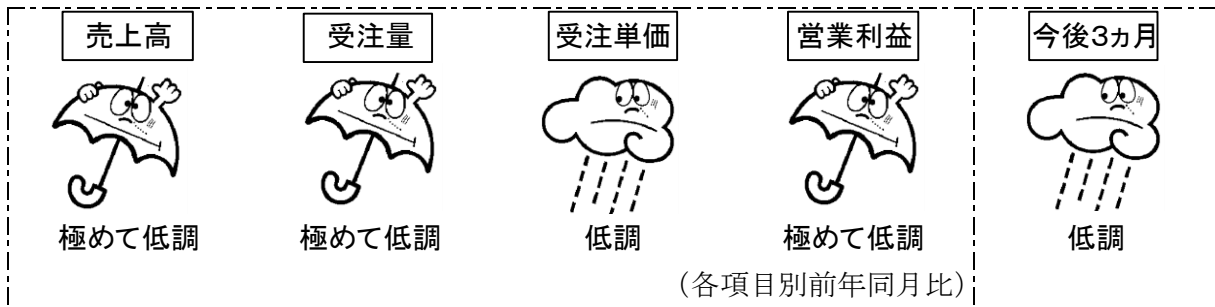
・コロナ禍からwith コロナへの意識変化が進んでいる様子である。これ以上耐えられない、というのが本音かもしれないが、コロナだから、という理由で仕事を抑える雰囲気はあまり見られなくなってきた。

精密機器組立

・先行きに関しては明るい兆しになってきた。3月頃から材料が入るので、底を脱した感はあるが、安心はできない。今後の経済対策を早く打ち出してほしい。

・中国経済は動き出した様子だが、まだ大きな受注には繋がっていない。
いつまでこのコロナ禍が続くか心配である。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 53.8	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0	▲ 61.5
販売客数	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 28.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 30.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 30.8
販売客単価	▲ 8.4	7.7	▲ 23.1	▲ 7.1	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 27.3	▲ 15.4	▲ 33.4	13.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 15.4
営業利益	▲ 25.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 42.9	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0	▲ 46.1
見通し	▲ 16.7	7.7	▲ 23.1	▲ 35.7	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 7.7	▲ 8.3	0.0	7.7	▲ 8.3	▲ 15.4

<経営者の目・見方・etc>

土産品

・先月同様に Go To 関連事業効果もあり、地域共通クーポンを使用し、土産品を購入される方が全体の40%近くいた。ただし、依然として厳しい経営状況に変わらない。

業務用食品

・新型コロナウイルス感染症の防止をしながら Go To トラベルキャンペーン事業がうまくいくのか、まだわからないのがこのコロナ禍の難しさだと感じている。

青果

・今月中旬頃から野菜の単価が急激に下降、販売苦戦、果実は単価高と、ギフト需要もあり動きは良い。新型コロナウイルス感染症の影響で外食が停滞し、業務関係で厳しい状況である。

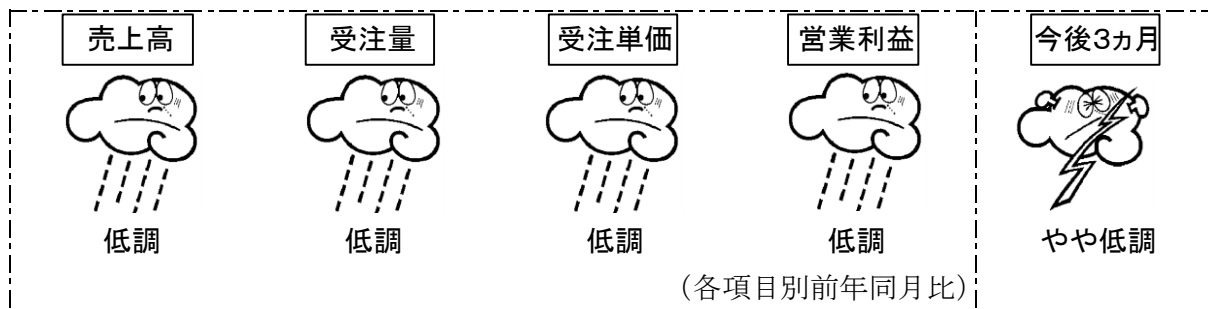
青果卸小売業

・野菜の収穫量が増え、安値であったため、スーパーでの安売りが目立った。土日の買い物をする人が多く、車の混雑がひどかったのに対し、平日は動きがなかった。

金属製品

・今まで停滞していた物量もだいぶ戻ってきてはいるが、各メーカーの生産状況や値上げ傾向も相まって、一部で板を中心に欠品や入荷遅れが発生してきている。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 21.9	▲ 6.7	▲ 23.4	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 72.0	▲ 32.0	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1	▲ 17.4
販売客数	▲ 25.0	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 35.7	▲ 61.5	▲ 62.5	▲ 68.0	▲ 44.0	▲ 54.1	▲ 30.4	▲ 36.4	▲ 26.1	▲ 26.1
販売客単価	▲ 15.6	10.0	▲ 16.7	3.6	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 28.0	▲ 12.0	▲ 37.5	▲ 21.7	▲ 31.9	▲ 4.3	▲ 21.7
営業利益	▲ 28.1	▲ 16.7	▲ 36.7	▲ 35.7	▲ 46.2	▲ 54.2	▲ 68.0	▲ 32.0	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7	▲ 17.4
見通し	▲ 9.4	▲ 3.3	▲ 26.6	▲ 53.6	▲ 61.6	▲ 45.8	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 17.4	0.0	▲ 8.7	▲ 8.7

<経営者の目・見方・etc>

印章

・11月3日の街と楽しむ文化の日では、地元のお客が大勢で出掛けていた。また11月は、結婚による改姓で銀行印や実印を注文してくださるお客が多かった。

洋菓子店

・クリスマス、お正月は家で少し贅沢に過ごすというニュースもあり、パン屋、ケーキ屋は同業他社からも見通しは良いと聞く。テイクアウトが中心の業種はしばらく忙しくなると思われる。冬場に向けて再び新型コロナウイルス感染症が拡大してきているのでスタッフ共々体調管理は気を付けたい。海外のワクチンに期待している。

和菓子

・新型コロナウイルス感染症拡大で人の動きが少なくなり始めた。

味噌・しょうゆ

・前年に比べると悪いが、売上が回復してきた。

パン

・11月の3連休は観光客らしきお客様も多く、売上は上がった。地域だけでなく、外部からのお客様の動向は売上に直結する問題なので、新型コロナウイルス感染症に関する今後の動きは気になる。

生鮮食品

・Go To トラベルキャンペーン事業により観光客が回復してきた一方、市街地等で長い車の列を見ると、この道路事情が何とかならないかと思われる。

婦人服

・婦人服の業界全体があまり良くない中、コート、ニットウェアが成功し、昨年比111%だった。お客様もお買い物に出てこられた感じがある。他店も見て、売れ残りで雑然とした店内を見て反省し、とにかく美しい店内、楽しい企画を心掛けている。

化粧品

・新型コロナウイルス感染症の影響で、肌に触れることを自粛し、本来の化粧品専門店としての活動ができないことは残念である。早い終息を祈るばかりである。

薬局

・9、10月はGo To 関連事業で旅行者が県内に来たが、11月はその数が減ってしまったように感じる。

住宅機器

・我々の業界では、来年本格的に新型コロナウイルス感染症の影響がでてくるのではないかと、という心配する声が多くなってきた。

自動車

・新型コロナウイルス感染症の状況が県内、特に中信地域で年度末に向けてどうなるのか気になるところだ。

陶磁器

・11月上旬こそ気温は低めだったが、月間を通して晴天が続き、紅葉シーズンとしては申し分なかった。観光客も回復し、街中でも人影を目にするようになった。例年だと、これから観光のオフシーズンになるが、新型コロナウイルス感染症の拡大次第では本当に寒い冬になる。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲43.8	▲20.0	▲31.2	▲47.0	▲92.9	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲88.2	▲58.8	▲68.7
販売客数	▲43.8	▲13.4	▲25.0	▲47.0	▲92.9	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲94.1	▲70.6	▲68.7
販売客単価	▲18.7	▲20.0	▲18.7	▲23.5	▲57.1	▲69.2	▲81.3	▲66.7	▲61.5	▲64.7	▲47.0	▲52.9	▲56.3
営業利益	▲50.0	▲40.0	▲37.5	▲52.9	▲85.7	▲92.3	▲100.0	▲86.7	▲84.6	▲94.1	▲94.1	▲70.6	▲81.3
見通し	▲6.2	▲13.3	▲6.3	▲47.1	▲71.4	▲46.2	▲18.7	▲26.6	▲23.1	▲41.2	▲23.5	▲23.5	▲37.5

<経営者の目・見方・etc>

料理

・新型コロナウイルス感染症の猛威で益々景気が悪くなってきている。

郷土料理

・Go To トラベルキャンペーン事業の地域共通クーポンの取り扱いを始めたところ、それを利用しての来店する方が多く、Go To Eat キャンペーン事業の食事を利用する方にも来店していただき、今月は売上が良かった。しかし下旬には新型コロナウイルス感染症の影響で客数、売上が落ち始めた。来月が心配である。

創作料理

・依然として続く新型コロナウイルス感染症の拡大で、11月の始めは4グループの予約があったものの、10日過ぎからはゼロの状態になってしまった。12月も8グループの予約があったが、内7グループがキャンセルになってしまった。新型コロナウイルス感染症の影響で年末の年越しの仕出も帰郷する子や孫もなく、依然予約は入らない。どこまで持ち堪えられるか不安な日々である。

食堂

・新型コロナウイルス感染症患者が全国的に激増し、外出を控えるようにしているせいか、特に夜の人出が減少している。三連休も昨年より静かであった。

・Go To Eat キャンペーン事業を利用するお客様もたくさんいるが、コロナ禍で宴会がないのは売上に影響している。

・昼時は天候も良く、年配者等の動きが多かったように思われる。

寿司

・11月も Go To 関連事業などもあり引き続き回復基調にあったが、最終週の新型コロナウイルス感染症の第3波の影響で水を差された形となった。今後はご宴会・団体利用がないことを前提とした営業が続き、いつ回復するのか意識して長期視点を持ちながら営業に挑みたい。

・Go To Eat キャンペーン事業は期待よりはるかに良かった。10月の松本市と Pay Pay のキャッシュバックのキャンペーンに続き、大いに助かっている。しかし、換金するのに時間がかかり過ぎなので、もう少し早く換金ができれば非常にありがたい。

・今月も新型コロナウイルス感染症の影響で客数が伸びない。特に分銅町通りだけでも、夜9時過ぎは人通りがまったくない。

居酒屋

・Go To 関連事業のため、目先の売上は良くなった時もあったが、連休明けからの感染者が多くなり、4月の最悪の状況に戻りつつある。

そば

・Go To トラベルキャンペーン事業で先月に続き集客があった。一方で宴会等がなく、12月の予約もキャンセルがあり新規予約が無い状況で、この先厳しい年末年始を迎える。

・お客様は、昼は来るが夜は来ない。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	元年11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	4.6	0.0	2.2	▲ 8.9	▲ 25.5	▲ 56.8	▲ 61.4	▲ 65.9	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4	▲ 20.5
販売客数	0.0	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 8.9	▲ 32.5	▲ 59.1	▲ 54.5	▲ 63.4	▲ 46.5	▲ 44.5	▲ 41.9	▲ 19.6	▲ 18.1
販売客単価	2.3	▲ 2.2	4.3	▲ 2.2	▲ 16.2	▲ 31.8	▲ 36.4	▲ 39.1	▲ 25.6	▲ 20.0	▲ 20.9	▲ 8.7	▲ 6.8
営業利益	▲ 4.6	▲ 4.4	0.0	▲ 8.9	▲ 27.9	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 63.5	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8	▲ 15.9
見通し	▲ 7.0	▲ 10.8	▲ 4.4	▲ 40.0	▲ 44.2	▲ 34.1	▲ 20.5	▲ 9.7	▲ 11.6	▲ 13.4	▲ 4.6	▲ 6.5	▲ 16.0

<経営者の目・見方・etc>

自動車整備・

板金塗装

測量・設計

機械設計

・今年も後半になってきたのに何の変化もなく1年が過ぎようとしている。イベント事も行わず淋しい1年だった。新型コロナウイルス感染症が収まらなければ来年に向けても景気が良くなる気がしてならない。

・昨年は台風19号災害の復旧作業で仕事量が急激に増えたが、本年は新型コロナウイルス感染症の影響で仕事量が低迷した。

・まあまあ状態であったが売上は少ない。新型コロナウイルス感染症拡大を抑えることを個々でやるしかない。感染者が増えているので経済との両立が難しくなっているが、何とかするしかない。

ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、確実に地方の業界構造・仕事の仕方にも影響を与えている。対面での作業が難しくなったことから、リモートによる会議・開発手段の多様性にそれらが見られる。気になるのは、コミュニケーションの不足、業務システム全体をプロデュースできる人材不足の露呈など。
システムサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資意欲の減退感は暫く続きそうである。今後新型コロナウイルス感染症第3波の影響がどのくらい出てくるのか先が読めない。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・上高地では11月15日に閉山祭が行われて同方面での営業は終了した。Go Toトラベルキャンペーン事業のクーポンを利用してのお客様は上高地方面では多かったが、市街地では少なかった。
理容	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が年末には落ち着いてくると思っていたが、ここにきて増加傾向であり、さらに厳しい状況になってきた。いつまで耐えしのげばよいのか、耐えしのげるのか、今後も心配は尽きない。
旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症によりGo To トラベルキャンペーン事業が一時中断し、お正月の予約キャンセルが多い。
温泉旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に引き続き11月も売上が驚くほど良い。対前年同月比で170%と、まさにGo Toトラベルキャンペーン事業のおかげである。12月も現時点での予約だけで既に前年の売上を30%上回っている。新型コロナウイルス感染症第3波の影響も多少あるが、今はそれ以上の予約があるので問題視していない。Go Toトラベルキャンペーン事業が5月まで延長される話も上がっているので、かなりの追い風になりそうで期待している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなり、Go Toトラベルキャンペーン事業は、前半は良好だったが、それ以降はあまり良くなく、12月の目途が立たない。
観光旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的に寒かったものの、11月に入っても暖かさが続き、Go Toトラベルキャンペーン事業の効果もあり、宿泊だけでなく、日帰りの売店・食堂利用も例年になく多かった。11月中旬で冬期休業に入るのが惜しいと思われるほどの盛況だった。あとは宿泊の立替分と地域共通クーポンが入金されるのを待つばかりである。
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の宿泊はGo Toトラベルキャンペーン事業の利用もあり、稼働だけは確保した。宴会は新型コロナウイルス感染症のためキャンセルが多く、どうにもならない。レストランは宿泊者の利用が多く、売上は上がった。
測量・建設コンサルタント業	<ul style="list-style-type: none"> ・Go To 関連事業後、新型コロナウイルス感染症が長野県内でも広がってきた。冬本番を迎え、今後どうなるか心配である。
不動産賃貸	<ul style="list-style-type: none"> ・長引くコロナ禍でテナント2軒の家賃引き下げを行っている。
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護ではコロナ禍を恐れ、ヘルパーの退職者が増加している。人手不足が大問題になろうとしている。
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・11月は来店数、売上高共に前年を上回った。12月も健康管理をしっかりと、繁忙期を社員一丸となって明るく、元気よく、笑顔で頑張っていきたい。

獣医

・新しい菅政権が発足してから2ヶ月余りが過ぎたが、前総理のモリカケ問題のような忖度のないような政治を望んでいる。

写真

・七五三のシーズンでもあり家族写真などは動きがあった。結婚式を延期している中、フォトウェディング・ロケーションなどの動きがあった。少人数での撮影のお問い合わせが増した。

